

【検査】

皮膚表面のマラセチアの有無を顕微鏡検査で確認します。しかし、この検査でマラセチアがみつからなくても症状がみられた場合には、マラセチア皮膚炎を否定することは出来ず、治療によって症状の有無を確認します。

【治療】

マラセチアの除去を目的とした治療を行います。治療としてマラセチアに有効なシャンプーの実施やマラセチアに有効なカビの薬を投与します。



【イトラベット®錠について】

イトラコナゾールというカビの薬(抗真菌薬)です。マラセチアは酵母様真菌なので、内服薬の第一選択はイトラベット錠になります。イトラコナゾールはマラセチアの細胞膜を壊すことで細胞内の成分を放出させ、マラセチアの発育が停止します。投与期間は2〜3週間で、食事が終わりましたら速やかに投薬します。投薬後、吐き気や下痢の症状がみられることがあります。まれですが、肝臓に影響を与えることがあるので、投薬前には血液検査の実施が推奨されます。飲み合わせが悪い薬もあることから、投薬前にかかりつけの先生に相談してください。



治療についての Q&A

Q.1 ワンちゃんとの生活で 気をつけることは？

マラセチア皮膚炎は高温多湿な時期にみられる皮膚病であり、多くはあぶら症の体質が原因です。早期から治療を始めることにより、治りも早く、管理も楽になります。あぶらの溜まりやすいシワを主体にした^{かゆ}痒みがみられた場合には、かかりつけの先生へ相談することをおすすめします。

Q.2 マラセチアって、 ヒトにうつりますか？

マラセチアは、健康なヒトにも常在している酵母様真菌です。しかし、犬とヒトでは、異なるマラセチアが常在しています。一般的に、健康なヒトに犬のマラセチアが感染して悪さをすることはありません。

Q.3 マラセチア皮膚炎は 治りますか？

マラセチア皮膚炎は、マラセチアとあぶら症が関連した皮膚病ですが、あぶら症の原因によって治る場合と、今後も上手くお付き合いしなければならない場合があります。すなわち、あぶら症の原因が食物アレルギーやホルモンのアンバランスであれば、これらの病気が改善されれば、マラセチア皮膚炎は治ります。しかし、あぶら症の体質によってマラセチア皮膚炎がみられたのであれば、シャンプーをはじめとするスキンケアで良好な状態を維持するよう心掛けます。

イトラベット®錠 を処方された ご家族の皆さまへ



監修: 村山 信雄 先生
(犬と猫の皮膚科、アジア獣医皮膚科専門医)

病院名



吉岐動物病院

〒811-5117

長崎県吉崎市郷ノ浦町田中触989-1

TEL 0920-47-6767



DSファーマアニマルヘルス

「マラセチア皮膚炎」とは、こんな病気です



【概要】

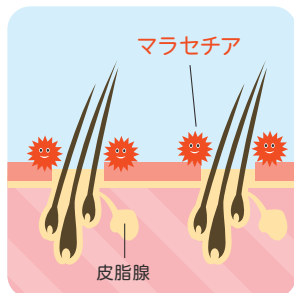
マラセチア[※]が関与した皮膚病であり、発症の背景として、多くの犬であぶら症の体質が考えられています。

典型的なマラセチア皮膚炎は、若い年齢からみられ、高温多湿な時期に繰り返し生じる皮膚病です。残念ながら生涯にわたって、うまくお付き合いしなければならない病気です。



※皮膚に常在している酵母様真菌。あぶらが好きな菌なので、あぶらの溜まりやすいシワの部位に常在しています。

健全な皮膚に常在するマラセチア



マラセチアが増殖した場合

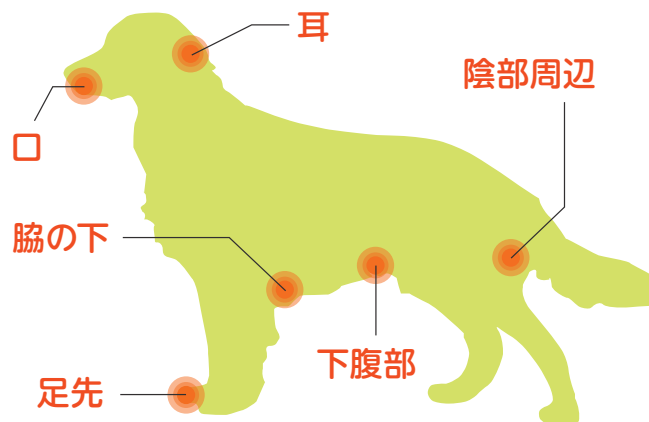


【主な症状】

軽症ではフケやあぶらを伴う皮膚の赤み^{こうはん}（紅斑）がみられます。経過が長い、または重症の場合では、抜け毛、皮膚が象の皮膚のように厚くなる^{たいせんか}（苔癬化）、皮膚が黒くなる（色素沈着）、といった症状がみられます。

これら皮膚症状は、あぶらの溜まりやすいシワに一致した部位、すなわち顔面、耳、首、脇の下、肛門周囲、足先などにみられます。一般的にシワは左右対称性であることから、皮膚症状も左右対称性にみられます。

【発症しやすい部位】



好発する犬種



トイ・プードル、チワワ、ミニチュア・ダックスフント、フレンチブルドッグ、パグ、シーズー、ゴールデン・レトリバーなど、あぶら症^{*}の体質である多くの犬種が含まれます。いっぽう、日本犬である柴犬はあぶら症の体質ではないことから、柴犬のマラセチア皮膚炎では、犬アトピー性皮膚炎や食物アレルギーなどの皮膚病によって皮膚環境が悪化し、生じていると考えられます。

^{*}：あぶら症は皮膚やあぶらの腺の新陳代謝が早まることによりみられる状態です。病気というよりはその犬の体質であり、生涯にわたり上手にお付き合いしなければいけません。